



あなただけの応援団

校長 尾崎 淳一

今から4年前の6月、前任校の『校長だより』に載せた文章です。

私には、高校3年生の息子がいます。父親には似ず、勉強が好きではありません。しかし、自分の好きなスポーツに出会うことができたので、私立の強豪校に進学し、部活動一筋の高校生活を送ってきました。朝は6時前に家を出て、夜の10時頃に帰宅します。辛いこともあるだろうに、毎日必死で頑張る姿を見て、いつも陰ながら応援していました。

先日、インターハイ出場を懸けた大会がありました。秋の新人戦で「県ベスト4」、冬の大会でも好成績を収め、真剣に全国大会出場を狙っていました。私も、手を伸ばせば届く夢と信じていました。大会当日、朝5時半に見送った後ろ姿には自信が溢れ、私は「よい報告」を待っていました。インターハイ予選はコロナ禍の無観客開催のため、保護者は試合会場で観戦することができません……。

午後2時半を回った頃、私の携帯電話に息子から連絡がありました。私の予想に反して、「よい報告」ではありませんでした。身長184cmもある大男が、「何度もマッチポイントを握ったのに負けちゃった……（涙）」「（両親）2人を全国に連れていけなくてごめんなさい……（涙）」と、電話の向こうでずっと泣きじゃくっています。夢まであと一歩のところ、**予想外の敗戦です……**。

私だって悔しいはずなのに、なぜか脳裏には大泣きする幼い頃の息子の姿が浮かんできました。息子には申し訳ないけれど、「そんなに泣いて、しょうがないなあ……。でかくなっても、昔と変わらないなあ……」と、不思議な懐かしさを覚えました。気に入らないことがあっては泣き、叱られては泣き、転んでは泣き、姉にいじめられては泣き……。小さい頃は泣いてばかりの男の子でした。泣きじゃくりながら、「抱っこ、抱っこ」と言うので、**優しい私**が抱き上げると、「**パパは嫌だ。ママがいい!**」と音量を上げて泣き叫んだものです。私は何度、抱っこの手を放しそうになったことでしょうか……。

実は、試合中に思わぬアクシデントにも見舞われ、十中八九は勝てるはずの試合で、最後は競り負けました。しかし、息子は言い訳せず、敗戦を潔く受け入れて、**長く厳しい部活動生活に終止符を打ちました**。俯いて帰宅した息子に、私は「長い間、お疲れ様……」と短く一言だけ声を掛けました。

今は笑顔も戻り、次の夢に向かって、新たな一歩を踏み出そうとしているところです。私にとって、勝ち負けや全国大会出場など二の次です。それよりも、夢を胸に最後まで頑張り通した息子を誇りに思い、立派に成長した姿を嬉しく感じました。私は息子の応援団長ですから、これからも彼が夢を実現するための支えになりたいと思っています。もう「抱っこ」は無理ですけどね……。

皆さんは、青春のど真ん中を歩んでいます。青春に悩みや苦しみはつきものです。意味もなくイライラして、つい身近な家族に八つ当たりしてしまうこともあるでしょう。でも大丈夫です。ご家族の方も中学校の先生方も、誰もが「青春の道」を通ってきたので、その気持ちはよく分かります。そして、私は今も皆さんと一緒に「青春の道」を進んでいます。ただ、苦しい時にはちょっと立ち止まって深呼吸し、周りの景色をゆっくりと見回してみることをお勧めします。あなたを支えてくれる人はたくさんいますよ。そして、ぜひ知っておいてください。私が息子を応援するように、あなたのご家族の方はいつだって、「**あなただけの応援団**」なのです！



「悔しい」気持ちになるのは、全力で取り組んできた証拠です。そして、竜北生の皆さんと同じように、これまで支えてくださったご家族の方も、共に活動してきた顧問やコーチも、応援してくれた仲間も「悔しい」のです。この「悔しい」気持ちを整理できたとき、ご家族に必ず伝えてください。『**ありがとうございました**』の一言を。

余談ですが、息子は悔しさをバネに、2か月後の「国体県予選」で優勝しましたが、コロナ流行のために、「三重国体」が中止となってしまいました……。大学4年生となった現在は、私の美しい背中を見たからか、「中学校の国語教師」を目指して努力しています。

私は竜北生の「**応援団長**」ですから、皆さんが新たな目標に向けて、力強く第1歩を踏み出す姿を楽しみにしています。そして、**心から応援しています**。「これまでも」「これからも」「いつまでも」……。最後に、私からのエールです！『**竜北生、Go!!**』

早いもので8月を迎え、夏季休業も中盤となりました。12日（火）～14日（木）は、「知立市学校閉庁日」として、平日ですが日直の教員を置きません。ご了承願います。

（令和7年8月5日）